

## 特集：コロナパンデミックの中の教育

特集「コロナパンデミックの中の教育」の投稿論文を募集する。

2020年3月のWHOによる新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のパンデミック宣言から3年となるなかで、世界の全ての人々の日常、社会のあらゆる活動に影響をもたらしたCOVID-19による歴史的病疫の経験は、教育や学校にどのような影響をもたらしたのか、また、この経験を経たこれからの教育や学校はどのようにあるべきなのか、学術的に問い直すことを目的とする。2020年以降の教育をめぐる動向を幅広く捉えつつ、3年の時間経過のなかで蓄積されてきたであろう各種の量的・質的なデータ、教育現場でのさまざまな実践、見えてきたさまざまな影響、パンデミックを通じて可視化された課題、将来に残すべき議論や論点など、コロナパンデミックのなかの教育を対象とする学術的研究を幅広く求めたい。

具体的には、コロナパンデミックのなかで、幼児教育、初等教育、中等教育、高等教育、社会教育のそれぞれの教育や活動には何が起り、そのことは現在そして未来にどのような影響をもたらしているのか。国、地方の政治や教育行政は事態とその推移をどのように受け止め、何を議論し、どのような意思決定を行ったのか。教師や教育関係者は、教育の現場でどのように対応し、そのことは教育学的にどのような意味を持つのか。突然生じた特異な状況は、子どもの成長・発達・能力形成にどのような影響を生じているのか。コロナ禍の中で止まったもの、促進されたものがあるとすれば、そのことはどのような意味を持つのか。日本国内の様々な対応を国際比較に位置づけるとどのような特徴があり、どのような課題が見えてくるのか。時間が経過するなかで、コロナ以前に「戻る」もの、戻らないもの、戻すべきもの、戻すべきではないものがあるとすればそれは何なのか。コロナパンデミックは未だ継続中であり、確定的な研究成果のみでなく、これまでの状況から新たな影響や論点を見通す研究成果もあり得るかも知れない。

教育を対象とする包括的な総合学会として、幅広く多様な専門領域を背景とする本学会会員による、さまざまな研究方法やアプローチから、学術的にコロナ禍のなかの教育を問い直すことにより、未来につながる研究成果を残すため、会員諸氏の積極的な投稿を期待したい。

### 【小テーマ例】

- パンデミックやCOVID-19へ対応をめぐる教育政策・教育行政の課題（国や地方自治体の対応）
- 各教育段階（幼児教育、初等教育、中等教育、高等教育、社会教育、家庭教育など）・教育現場での対応や影響の分析
- 9月入学をめぐる世論・政治・専門家集団の動向や検証
- 学校現場での対応と教員の仕事・役割の在り方（働き方改革と非常事対応）
- オンライン授業の導入をめぐる地域・学校間の格差の背景とその影響
- コロナ禍の教育実践の意義や課題（できなくなったこと新たな取り組みなど）
- 成長機会・学力形成にどのような背景の子どもが影響を受けたのか
- 学校の意味・役割の再考
- 国際比較から見た日本の学校・子どもへ対応の特徴や課題

締切：2023年7月31日（月）必着

提出先：会員情報管理システム（SOLTI）内に提出する。

\*投稿にあたっては、最新の「投稿要領」を参照のうえ、論文本文のPDFファイルの主題の上に、「特集：コロナパンデミックの中の教育」と朱書きすること。